

●水環境・河川・流域（11） （1-B-09-1~1-B-10-2）

本セッションでは、水環境における河川流域から干潟に至る流域に関する研究が6件発表された。

1-B-09-1では、森と海のつながりとして重要な機能を果たしているフルボ酸鉄の河川への物質輸送機構について、特定の河川を調査対象として検討している。上流域の森林地や農地で生産されたフルボ酸が鉱物中の鉄を溶解し、フルボ酸鉄錯体として河川を経由して下流に輸送される機構を提案している。フルボ酸鉄の実測は困難であるが、河川で錯体を形成している化学的根拠が得られることを期待したい。1-B-09-2は、水環境健全指標の新しい表示法を提案し、従来法よりも河川の特徴をより明確に表現できるとしている。

1-B-09-3では、ダムで発生するピコプランクトンについて、PAC、alum、およびFeCl₃の三種類の凝集剤の凝集処理特性について検討している。PACが最も優れた処理性能を示しており、今後、pH制御も含めた適切な処理条件を設定していただきたい。

1-B-09-4では、小規模な都市河川に設置されている堰が水質に及ぼす影響を調査している。堰近傍で有機懸濁物が沈降し、酸素が消費されることを報告している。1-B-10-1では、ダム建設事業で発生する濁水対策によって下流域の河川生態系に及ぼす影響を調査している。降雨時に発生する濁水は貯留池で処理することによって負荷が削減され、魚類や底生生物への影響は確認されなかったとしている。建設事業における環境影響において貴重な情報である。

1-B-10-2では、増水による汽水域干潟生態系への影響について、数年間にわたる底生生物の種類ごとの個体数データを整理して評価している。増水の水位と増水時間から増水後の個体数減少率が推定できるとしている。

森林から河口沿岸域に至る流域について、水質関連の貴重な情報が網羅されたセッションであった。

（宮崎大学・工学部 鈴木 祥広）